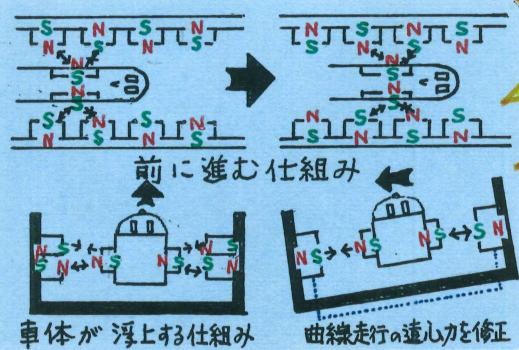


The logo features the word "MAG" in large green and black letters, followed by "next" in red, and "2018" in black. Below "MAG" is a yellow swoosh containing the text "300 km/h". The entire logo is set against a dark background with a purple border at the top.

前進する利用して
が発生しても、車体は超高速走行中に地震が発生しても、車体は車両と線路に設置された電磁石は車両を浮かすと同時に、両サイドの壁にぶつからないようガイドの役目を果たします。リニアモーターカーが走行するには、下図のようになります。S極とN極が引き付け合ったN極同士やS極同士が反発したりし合う作用をうまく利用して車体を浮上させて前方に進みます。



車両に修理されて中
央に修理され、壁に
ぶつかることは、また
複数のブレーキシステム
を装備して停車させ
ることもできます。
「リニアモータ」
は、正式な英語では
「Linear Motor」とい
う言葉で、現在マク
シマ社が開発され
て、ドバイで実験され
た中國上海市内の龍陽路駅
と、上海浦東空港駅
を結ぶ「トラン

グレブ（超電導）」方式で、世界に唯一超高速運転が可能であり、一般営業が行われて、これは、この上海マグレブだけです。実際に乗ってみたくて、実際に現地へ向かい乗車体験をしました。時速430kmと300%の変化率により、最高速度が

581km/hを目指すJRリニア!!



2種類の運営をして
ます。

また乗った時は300km/hで走行でしたが、滑らかな加速と窓から流れる新时代の景色を感じ、超高速走行にとても興奮しました。

の技術は、もうこま
で来ています。10年後
100年後の日本社会は、
人口減少という社会問
題を抱えながら、発達
した人口知能（A.I.）
ロボットやコンピュート
ターが大都市中心に鉄
道の運行管理を無人で
制御していくて想像す
ると、期待と恐怖が半
分半分に感じます。未
来はまさに“X”です。

リニア 高速 への 挑戦

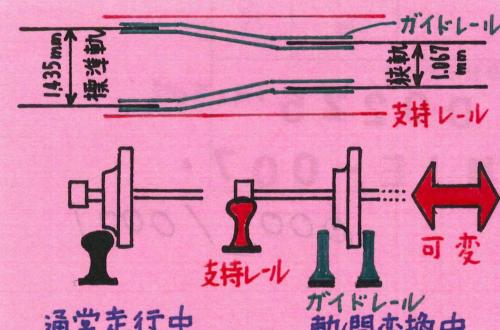


ユに設置された透明のチ
ューブ(パイプ型)内チ
ューブを走行する磁気浮上列車が走ってい
たり、空中浮遊型自動車やバスが空中飛行して
移動する絵図が描かれていた。など聞きました。
実現していません。2018年でも、それらは

て行きます。この先、
より乗らなくなる人が
るようになる新入生がわざ
る新社会人の方が少ない状態が長く続
くと、廢止路線が長くなる
が増加したり、また列車の本数が減
りたり、また長さが短かくなったり、
こんな時代がやってくるのかな。
こんな時代がやってくるのかな。

ができます。直線路を走ることで、軌間可変電車が軌間(レールの幅)を変えるためには、軌道が必要です。現在開発中のものは、可変電車が案内用のガイドレールの上を通過すると、下図のように左右の車輪の間隔

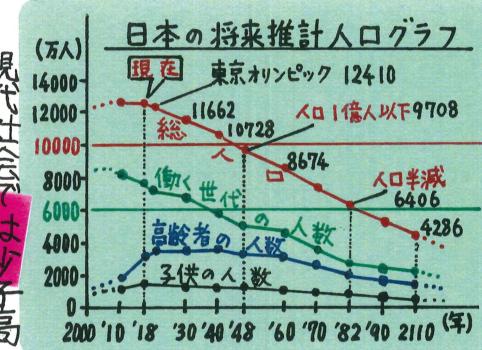
的に変更され、軌間の
違う線路を走ることが
でき、ようになるもの
です。2022年開業の長崎
新幹線で日本では初登場
となり、新しい時代を
切り開きます。



軌間可変電車の新技術登場！

100
年後
運

が
い
む
い?



と、鉄道を運行する職員も少なくなつて列車で運行の全自動化が進んで行くと考えられます。駅の自動改札機は撤去され、ICセンサーが発達したチップやカードを持てば、周囲の列車に乗ることで乗車記録を読み取ることができます。更に全ての駅と駅間の線路中間に、電子ゲートを簡単がくくことで乗車区間情報を読み取ることで、一人で下車する時に再びドア周囲のセンサーや降車記録を感知して、運賃が収入され仕組みになります。